

無明の橋

むみょう

渡辺真起子 陣野小和

吉岡睦雄 岩瀬亮 山口詩史 岩谷健司 木竜麻生 / 室井滋

監督 坂本欣弘

脚本・伊吹一 坂本欣弘 音楽・未知瑠 製作・堀江泰 堀田里美 加治幸大 坂本欣弘 小林水 堀崎秀樹 プラネサ・1 純純
ラインプロデュース・1 田中佐知彦 テンシエイトプロデュース・1 仙田麻子 撮影・米倉伸 照明・平谷里紗 音響・水島 美術・高野徹
スタイリスト・大場千夏 ヘアメイク・斎藤忠理子 助監督・堀集 中村幸貴 制作担当・小元咲貴子 種村延法
制作協力・バイハイルムズ IPPPO 制作プロダクション・コトリ 配給・ラビウズ
『無明の橋』製作委員会 堀江泰 堀田里美 / Z/O / 北神ポト・サリス / コトリ / P.A.R.K. フォクル
特別協賛・丸新志建設 潤光同発株式会社 KOTELLO
協賛・ビルド・サポート 富山テレビ放送 北日本新聞社 F.M.とよま 立山ふるさと村 エニティワックス ©2025『無明の橋』製作委員会

立山山麓に伝わる女性救済を願う行事、布橋灌頂会。この地に集う女性たちの再生と出発の物語

ぬのばしかんじょうえ



日本映画界を支え続ける渡辺真起子主演

深い喪失を抱えた女性の再生と出発を、 実在する儀式をモチーフに描く

名前っていつから始まったんでしょう。
最初に名前をつけた人は、
なんて名前なんて思いついたんだろう。

日本の屋根と言われている三大アルプスのうち北に位置する立山連峰。全国に存在した山岳信仰は此処立山でも例外ではなく、古来、男性のみ登拝が許されていた女人禁制の山として知られていました。江戸時代、女性の極楽往生を願う儀式として、本作で紹介される布橋灌頂会（ぬのばしかんじょうえ）が始まります。この映画では、富士山、白山と並ぶ日本三霊山のひとつである立山に、救いや癒しを求めて集う現代の女性たちが描かれます。主人公・由起子を演じるのは、1998年に俳優デビューを果たして以降、名だたる監督たちの作品に出演し、日本映画界を第一線で支え続けてきた渡辺真起子。3歳の愛娘を亡くし、強い自責の念を抱えて生きる由起子を演じます。同じように、癒しを求めてこの地を訪れた夏葉に、木竜麻生（『いつか無重力の宙に』（NHK夜ドラ）、『秒速5センチメートル』）。地元の高校生沙梨に陣野小和（『なんで私が神説教』（NTV土曜ドラマ）、2026年公開『終点のあの子』）。由起子の友人に室井滋（『終活シェアハウス』（NHK プレミアムドラマ）、『ぶぶ漬けどうです』）。他、吉岡睦雄、岩瀬亮、山口詩史、岩谷健司が脇を固めます。監督を務めるのは、一貫して富山の美しい自然を背景に、人の痛みに寄り添う作品を手掛けてきた地元出身の坂本欣弘（『真白の恋』『もみの家』）。これまで真つすぐなヒューマンドラマを描いてきた彼が、今回は時に幻想的な描写を交えながら、癒しを求めて全国から集う女性たちを真摯なまなざしで見つめます。いにしえに女性救済の儀式として始まった布橋灌頂会をひとつの舞台として描いた本作は、構想から9年の時を経てついに誕生しました。

会いたい人がいてね。
会えるかなあと想って……

Story

東京郊外のアパートでひとり暮らしをしている由起子（渡辺真起子）。15年前に3歳の愛娘を亡くした彼女は、心に癒えない心の傷を背負い、今もその罪の意識から逃れられずにいた。由起子はある日、「布橋灌頂会」という儀式の存在を知る。白装束を纏った目隠しの女性たちが、立山連峰のふもとにある布橋。下を流れる川を三途（さんず）の川に見立て、この世とあの世の境とされる赤い橋を渡ります。この世ならぬ幽玄な光景に心惹かれた由起子は、その儀式に参加することとなる。訪れたその地で、地元の高校生 沙梨（陣野小和）、何か事情を抱えて参加した夏葉（木竜麻生）と言葉を交わし、心が通い合う時を過ごす中で、由起子は亡くした娘の記憶と向き合うことになるのだった――。

私ね、名前いっぱい持ってたの。
だからいらないものは、
全部捨てちゃおうって。

12.19 (金) 他 全国順次公開

新宿武蔵野館、シネスイッチ銀座

富山県内は2026年公開となりました。
詳しくは右のQRコードおよび公式SNSでお知らせします
X @mumyo_hashi

